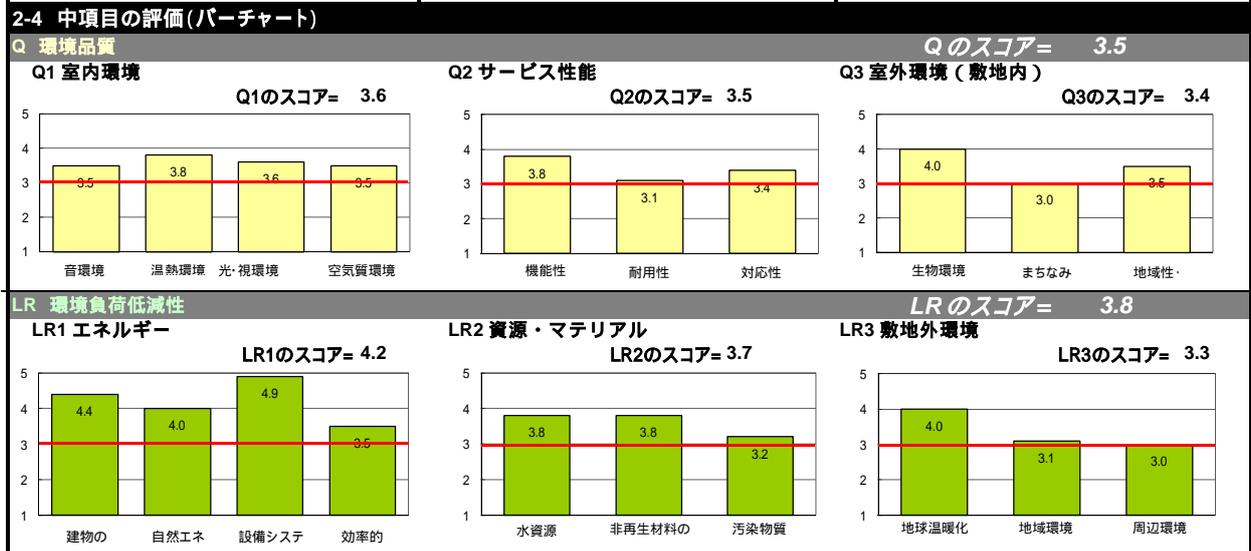
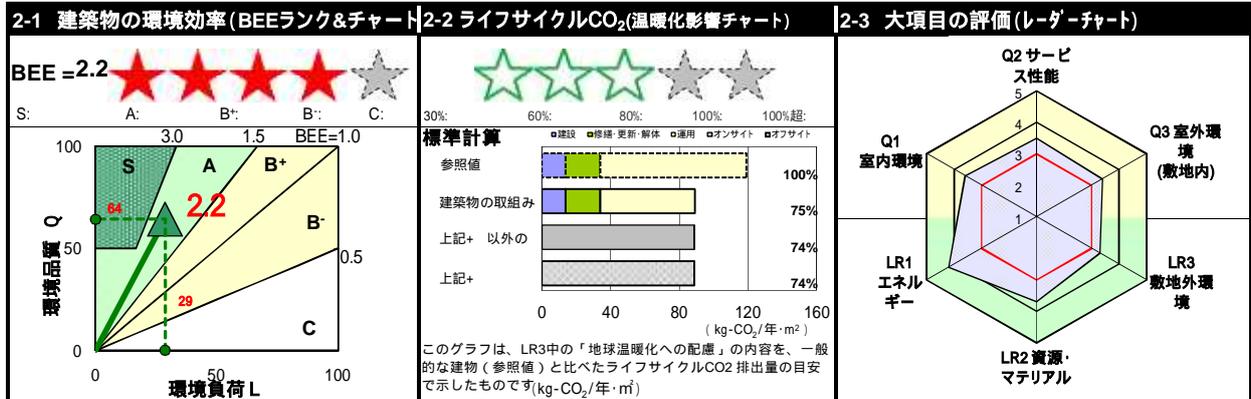


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ニフコ新技術センター	階数	地上7F地下1F
建設地	神奈川県横須賀市光の丘2568-29	構造	S造
用途地域	準工業地域、横須賀リサーチパーク	平均居住人員	300人
気候区分	地域区分	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年1月 予定	評価の実施日	2010年10月25日
敷地面積	12,864 m ²	作成者	坂倉建築研究所
建築面積	3,283 m ²	確認日	
延床面積	13,960 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合 実験室、オフィスの機能性、フレキシビリティを重視し、かつ企業の研究開発拠点となるため、従業員のイノベーションを誘発すべく、自然環境の可視化やリフレッシュ・コミュニケーションスペースの創出やダイナミックな空間構成を計画に取り入れた。また環境への意識向上のため、風力発電や太陽光発電、地熱利用などの効果が認識できるように配慮する。	その他 太陽熱集熱2重外壁：表面を集熱効率の高い暗い色の金属スパンデルルによって2重外壁内部の温められた空気が上部にたまり、その空気を空調機の外気取り入れに利用することで冬季の空調負荷の低減を図っている。
Q1 室内環境 北面をガラスカーテンウォールとすることで、室内に安定した自然光と斜面緑地の景観を取り込んだ。オフィス部分には床しみ出し空調を採用し、天井を高くすることで、快適な空気環境と、開放感が得られるように配慮する。	Q2 サービス性能 大スパンとし、南側にサービスコアをまとめ、オフィスや実験室をフレキシブルな無柱空間とした。ラウンジや吹抜を設け癒しの空間や開放的な空間を設ける。天井露出配線配管やOAフロアとし、配線配管の更新に配慮した。
LR1 エネルギー 南面開口を小さくし日射熱負荷を抑え、設備配管シャフトを兼用した。集熱外壁により、日射熱を冬季に利用する計画とする。地下配管トレンチをクールヒートトレンチとして、地熱利用を図る。太陽光発電パネルや風力発電設備を採用し、自然エネルギーの変換利用も行う。	LR2 資源・マテリアル エコマテリアルやリサイクル資材を積極的に使用する。建物の大部分は乾式工法として、解体時の分別、再資源利用可能性向上に配慮した。
LR3 敷地外環境 北側の住宅地の日照に配慮して、冬至の16時においても北側の斜面を実日影が超えないことを確認した。騒音が出る可能性のある、耐久試験室、振動試験室を地下に計画し、騒音に配慮した。	Q3 室外環境 (敷地内) 樹林地等、自然環境の保全とヒートアイランドの抑制を図る。アプローチも積極的に植栽や透水性舗装等を計画し、景観と雨水流出抑制に配慮する。従業員のリフレッシュスペースとなるような屋上緑化テラスを設ける。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質)、**L:** Load (建築物の環境負荷)、**LR:** Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、**BEE:** Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される